

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2670900535
法人名	社会福祉法人永山会
事業所名	グループホーム天寿
所在地	〒612-8012 京都市伏見区桃山町遠山37-3 (電話) 075-622-8777

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年9月18日

【情報提供票より】(平成 20 年 6 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 1 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~75,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(6 月 30 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 73.3 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人蘇生会総合病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人「永山会」を母体を持つ当該ホームは、JR、京阪六地蔵駅より程近い桃山町山手の閑静な住宅街にあり、民家を改装し、デイサービスを併設した建物です。広い庭にはさまざまな木々が点在し、利用者の憩いのひと時を演出しています。利用者と家族が植えた草花や野菜は、職員や利用者と共に収穫し食卓にぎわすことも有ります。ホームでは職員を常勤雇用とし、居室担当制を設けることで、利用者の「今」に着目し、一人ひとりのニーズに対応したきめ細かいサービスの提供に努めています。家族の来訪も頻回あり、家族の希望や意向を直接聞くことが出来ています。管理者始め職員は地域の行事にも積極的に参加し、ホームを理解してもらう努力をしており、地域との関係も良好です。やさしい時間が流れていくのを共に楽しんでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、ホーム主催の行事をたくさん開催し、地域に理解してもらう努力をしたり、口腔ケアや排泄チェック等の個人チェック表を充実させ、ケアプランの変更に役立てる等、改善に努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の自己評価票は全職員が項目を閲覧し、それぞれが記入し、会議で話し合い管理者がまとめて作成しました。職員と共に評価作業を行ったことでサービスの見直しとなり、職員の意思統一に繋がっています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	2ヶ月に一度、家族、民生委員、地域包括センター職員、ホームの職員が参加し開催されています。会議では、ホームの現状報告、活動内容の報告がなされたり、施設や重度化等の課題についての話し合いが行われ、多くの意見やアドバイスを頂いています。また出席者からは地域の情報を得て行事に参加したりしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	春と秋に食事回を兼ねた家族会を開催し、春の家族会では運営や事業計画の説明や家族同士の意見交換会の時間を設けています。また玄関に意見箱を設け、苦情受付についての概要を掲示しています。ホームではより多くの家族に来てもらえるよう、機関紙を発行しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

自治会に加入し、職員が地域の防災訓練に参加したり、利用者と一緒に公園の清掃に参加しています。夏祭り、地蔵盆、運動会等、行事に参加したり、秋祭りにはおみこしも回ってきます。また傾聴、生け花、書道等の地域のボランティアを受け入れています。デイサービスの休日を利用して、今後は地域の方を招いた料理教室を企画しています。地域からは勉強会の講師の依頼があったり、ホームと地域の連携を増やしていく予定です。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「明るく・楽しく・美しく」を玄関の誰でもが見えやすい場所に掲示しています。また、パンフレットにも掲載し、地域にホームを理解してもらう努力をしていますが、事業所独自の地域密着型サービスとしての理念を作り上げるには至っていません。	○	利用者が地域で安心して暮らしていくために、何が大切かを職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げられることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週に一度、職員全員が法人の朝礼に参加し、理念を唱和しています。また職員は理念の下、利用者にとって堅苦しくなく、和めて、安心できる雰囲気作りをモットーに、日々のケアに取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、職員が地域の防災訓練に参加したり、利用者と一緒に公園の清掃に参加しています。夏祭り、地藏盆、運動会等に参加したり、秋祭りにはおみこしも回ってきます。傾聴、生け花、書道等地域のボランティアを受け入れ、地区の勉強会への講師依頼も受けています。デイサービスの休日を利用して、地域の方を招いた料理教室の企画がたてられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、ホームを地域に知ってもらう為多くの行事を企画しています。口腔ケアや排泄チェック等の個人チェック表を充実させ、ケアプランの変更に役立つ等、改善に努めています。また今回の自己評価票は全職員が項目を閲覧し、それぞれが記入し、会議で話し合い管理者がまとめて作成しました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、家族、民生委員、地域包括センター職員、ホームの職員が参加し開催されています。会議では、ホームの現状や活動内容の報告がなされたり、施設や重度化等の課題についての話し合いが行われ、多くの意見やアドバイスを頂いています。また出席者からは地域の情報を得て行事に参加したりしています。		

グループホーム天寿

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には更新時の際、挨拶をしたり、京都市長寿課に電話で困難事例の相談をしたりしています。また運営推進会議の議事録を市担当者に送り、見てもらっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪の多い家族には利用者の日常の様子を報告したり、衣類の入れ替えなどを依頼しています。季節ごとに利用者の写真入りのホーム新聞を発行し、居室担当者の手紙を添えて郵送しています。金銭は預かり金制度とし、おこづかい帳をつくり、領収書を貼り付けて、家族の来所時に報告してサインをもらっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	春と秋に食事回を兼ねた家族会を開催しています。春の家族会ではホームの運営や事業計画の報告を行い、意見や要望、苦情を収集しています。出された意見、要望は直接あるいは機関紙を通じて報告し、現場の実践に繋げています。また玄関に意見箱を設け、苦情受付についての概要を掲示しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでは職員が変わる際、顔を憶えてもらうために、日勤帯で1ヶ月務め、慣れてから変則勤務に移行するようにしています。また全ての職員を常勤勤務としており、職員の意識向上に務め、離職を防ぐ取り組みをしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修計画に添って、毎月職員が交代で研修に参加しています。研修記録は2部作成し、1部は事業所で共有し、1部は法人に提出しています。また外部研修については法人から指定された研修に順番に参加しています。研修資料は全員に配布し、毎月行われるカンファレンスにて伝達研修も行われています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の外部研修の際、他のホームの管理者と交流を持つようにしています。グループホーム協議会へはシフトの都合上、あまり参加できていません。	○	同業者との交流、連携はホームの質の確保だけでなく、悩みの解消や気づきの発見においても重要です。他ホームに働きかけ交流を持ち、相互の見学、勉強会等の機会を持たれる事が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは事前に必ず見学をお願いしており、職員も自宅を訪問し、顔を覚えてもらう努力をしています。入居後しばらくは家族と電話等で相談しながらケアにあたり、徐々に慣れてもらっています。併設のデイサービスの利用者がそのまま申し込まれることが多く、スムーズに馴染めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から上手な草抜きや洗濯物の干し方等生活の知恵を教わる一方、料理を作る際に失敗して叱られたりします。利用者と職員は冗談を言い合ったり、笑ったり、怒ったりしながら、互いに支える良い関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでは居室担当制を設けており、利用者の思いや意向の把握に努めています。担当職員の気づきや思いをカンファレンスで他の職員と共有し、ケアプランに反映させています。思いを口に出せない利用者も、少し距離を置いて改めて様子を見ることで本当の思いを知ることができています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用して情報収集し、担当職員から聞いた日々の様子や変化を業務日誌に記入しています。ホームでは利用者や家族から聞いた希望を下に月に一度のカンファレンスで全職員が話し合い、多くの気づきやアイデアが反映された介護計画が作成されています。またカンファレンス記録もきちんと記入して残しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ホームではどの利用者についても3ヶ月ごとにモニタリングにて評価を行い見直しています。利用者の状態に変化が見られる場合は、その都度家族に相談して、介護計画の見直しを行っています。家族会の際に時間が合えば、担当者会議を行ない、利用者、家族に出席してもらい見直しを行うこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合が合わない場合の通院介助や、頼まれた薬を取りに病院に行ったりしています。利用者の希望により、理美容の同行や嗜好品等の買い物に、利用者職員の一対一の外出支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族に希望を聞いてかかりつけ医を決めています。受診は出来るだけ家族にお願いして、利用者の現状を知ってもらえるよう支援しています。また何かあれば歯科医の訪問を受けることが出来、利用者の希望で週に一度在宅マッサージを利用しています。提携医とは緊急時の連携対制が取れており、日中はデイサービスの看護師が対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは民家改装型でバリアフリーでないハード面や、看護師の常駐が無いなど医療面での連携体制が整っていないため、終末期の対応はしない方針であり、家族には入居の際、説明し同意を得ています。家族の希望でもありますが、口から食べ物が入らなくなった時点で入院してもらうようにしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対する言葉かけには特に注意をしています。不適切な場合は管理者がその場で注意しヒヤリ・ハットに記入しています。個人のファイルは2階の事務所に鍵をかけて保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や食事の準備等の役割は、声かけはしますが本人の意思を尊重し、やりたい人がやりたいように出来る支援を心がけています。朝はそれぞれのペースで起き、朝食時には声かけをしますが食事は自由にとってもらっています。		

グループホーム天寿

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は下ごしらえ、盛り付け、片付け等、職員と一緒に食事に関する一連の作業を手伝っています。週末は利用者の好みや希望のメニューとし、誕生日には利用者の好きな物を提供しています。また食材は庭で収穫した野菜を利用したり、おやつは好みの物を職員と買いに出かけています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームにある浴槽は深く使いにくいいため、デイサービスの浴室を利用しています。そのため午後からの入浴となりますが、好きな時間に入っておられ、希望により夜間対応も可能です。利用者は2日に一度は入浴できており、入浴の拒否はほとんど無く、職員の誘導の工夫で対処できています。今後は毎日入浴できるよう支援していく予定です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、家事や草花の水やり、メニュー書き、回覧板を隣に届けたりしています。以前民生委員をしていた利用者は他の利用者のまとめ役をするなどの役割をこなしています。ホームでは毎日昼食前に歌と体操をし、体を動かしています。また利用者は市の展覧会に出品するために色紙を丸めた貼り絵を共同で作成しそれが毎日の楽しみになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園や小学校までの散歩が日課となっており、散歩の途中で見つけた駄菓子屋への買い物も楽しみの一つになっています。気候の良い時期には宇治の植物園や桃山御陵、嵐山等への遠足やドライブに出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の生命の危険と他の利用者に対するサービスの低下を防ぐために、門扉に施錠しており、家族には説明し同意を得ています。運営推進会議で毎回のよう議題に挙げ、話し合い解決策を探っています。また職員はより多く外出の機会を設ける努力をし、出来ないときは広い庭に出てもらい、気分転換を図っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回、昼夜を想定して消防署立会いの下に避難訓練をし、予定は回覧板で地域に知らせています。毎月ホーム内で緊急対応訓練や防災の勉強会を行うなかで、ホーム独自の防災夜間対応マニュアルを作成しました。次回の訓練では近隣に声をかけ参加を呼びかける予定です。		

グループホーム天寿

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたカロリー計算されたメニューに添って食事を提供しています。必要のある利用者については、食事量と水分量を記録しています。食事に関しては担当者を中心にアセスメントをし、カンファレンスで話し合い、利用者の状態に合わせ、おにぎりにしたり、懐石風に1品ごと出したり、カレーでもご飯とルーを別に盛るなどの食べてもらう工夫をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭には大きな木が植えられ木陰が出来、桜の時期には庭で花見が楽しめます。季節の花や野菜が植えられ利用者自ら収穫しています。ガラス張りのテラスには太陽が降り注ぎ、冬場は絶好の日向ぼっこの場所になっています。玄関は併設のデイサービスとの共有で、あえてバリアフリーとせず、段差を活かして残存能力の低下を防いでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で居室に畳を敷いて改装したり、絨毯を敷いている利用者もいます。自宅より家具、ベッド、テレビ、机椅子、ポータブルトイレ等なじみの物を持ち込み、居心地よい工夫をしています。またボランティアの先生に習った生け花や書道の作品を飾り、よいアクセントになっています。		